名古屋女子大学　紀要　43（家・自）　167～174　1997

名古屋女子大学における学生の学内LAN利用

白井靖敏・小島浩司

The State of Using LAN and Internet at Nagoya Women's University

Yasutoshi SHIRAI and Hiroshi KOJIMA

Abstract

We began to use the internal LAN (Local Area Network) for the staff and the students of our university in April of 1996. The total number of the issue of the account was 82 for the staff and 907 for the students in July Now, the students are limited to using the LAN for WWW and E-mail

We made a manual for basic use of the LAN (including Internet) for staff and students, in which we outlined some principals and guidelines to follow We also made a similar manual for opening the home page

In this paper, We researched the condition of the internal LAN and equipment and the usage of LAN by the female students of our university

はじめに

本学では，1996年4月から学内LANの本格的な運用を開始した．これには,短期大学部として申請した文部省の私立学校施設設備費補助金（学内LANシステム）が採択されたことによる設備の充実が大きく貢献している　学生の利用環境の整備を含めた本学の学内LANシステムは，中部地区の女子大学および女子短期大学の中でも早い方に属する．

本学のLANは名古屋大学を経由してインターネットに接続しており,汐路地区の各研究室のほとんどに専用回線（基幹線100Mbps，それぞれHUBにより10Mbps）のコンセントを設置し,パソコン等を接続すればフルタイムで使用可能になっている．天白地区（文学部）には専用回線が整備されるまで,内線電話によるPPP接続の便宜を図っている．さらに,学外から公衆回線を利用したPPP接続もできるようにしている．また,学生用には，2演習室に各60台，自習室用に10台，ともにWindows95対応のパソコンを新設し，各々のパソコンが学内LANに接続していて，自由にインターネットの利用ができるようになっている．

本報では，本学のLAN環境が利用できる学生に対するアンケート調査結果に基づき，インターネット等に関する意識とその利用状況について考察する．

学内LANシステム

学内LANは64kbpsの専用線で名古屋大学を中心とした東海地区学術情報ネットNICEを経由してSINETバックボーンへ接続している　本学のドメインネームサーバであるUNIXserver

“haruko”（本学の創設者の名前にちなんでいる）には教職員専用のメールサーバを，学生用のメールサーバには“shioji-gw”を充て，WWWサーバもこれに置いている．さらに，研究開発用として“yamato”を設置し，ここにニューズサーバを置いている．

2つのコンピュータネットワーク演習室の各パソコンは教室毎にWindows NTサーバを介して各UNIXサーバに接続している（図1）

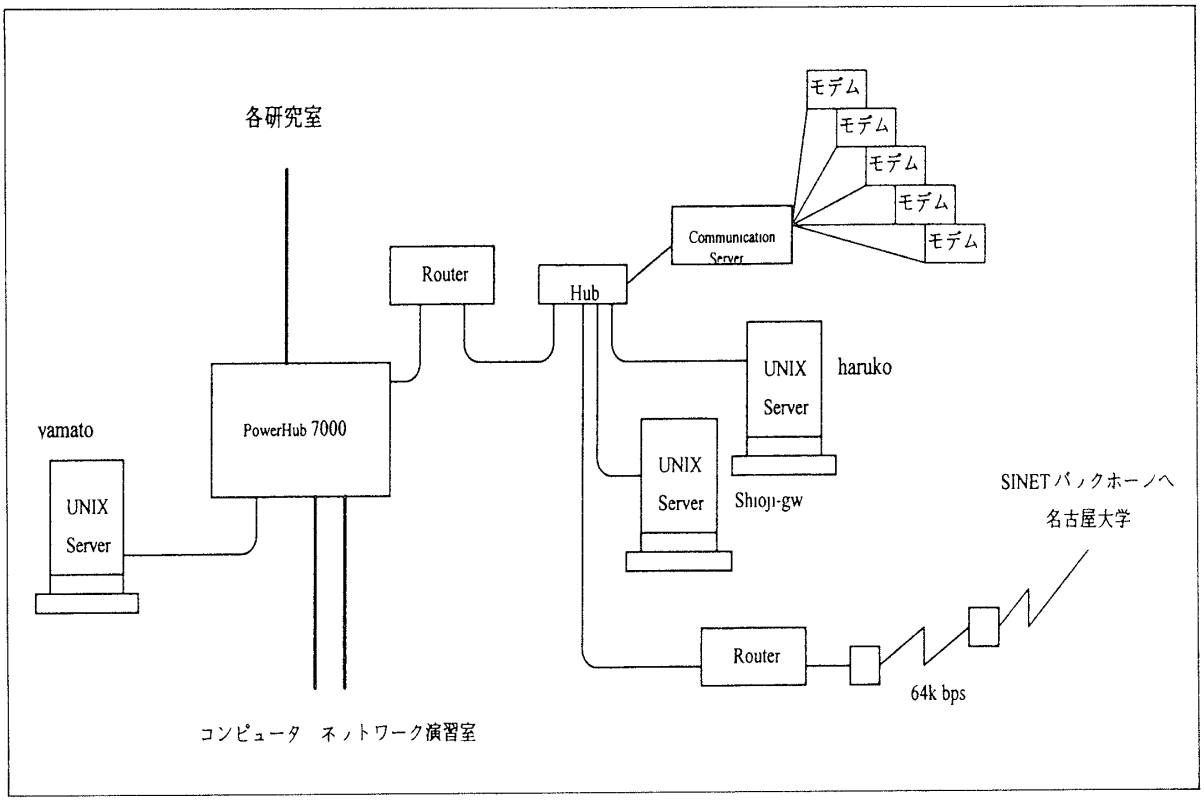

図1　学内LAN構成図

学生の利用

1．学生向けアカウント

学生がアカウントの発行を希望する場合，「インターネット利用申請書および誓約書」を提出しなければならない　そして，利用が許可された学生は，本学で定めた「インターネット利用要項」に記載されている遵守事項を守らなければならない　「利用要項」には，学内ＬＡＮ利用のルール，機器の取り扱い，メールのやり取りなどに関するネチケット等の記載があり，それらに違反のあった場合は，利用権を取り消すよう定めている．

本学の情報科学センターでは，利用を許可した学生に対し，卒業時まで有効なカード型の「利用許可証」および小冊子「利用の手引き」を配布している　ただし，学生自身が機器の操作を含めてインターネットの利用が十分できる能力を有すると認めた者ものに対してのみ許可している　そのため，初心者に対しては利用のための講習を行う必要がある．情報関連の演習等で機器の使い方に慣れている学生に対しては，演習担当の先生がアカウントを希望する学生に対して，必要な講習を行い，許可証を発行し，また，コンピュータ操作の経験がない初心者で，情報関連の演習も選択していない学生に対しては，情報科学センターの教員が担当するインタ

ーネット利用講習会を開いて便宜を図っている　これまで，6月，7月，9月に各1回開催し，合計218名の学生がこの講習会を受講した．

2．アカウント発行数

1996年10月1日現在，本学の学生に発行したアカウント数を表1に示す．短期大学部の生活情報専攻は，授業等での利用が必須のため，全員が利用できるようにしている．

表1　アカウント発行数（学生）

	学科・専攻	1年	2年	3年	4年	合計
家政学部	生活環境	90	12	17	11	130
	管理栄養	0	0	16	10	26
	生活経営	66	20	13	56	155
文学部	児童教育	7	9	6	12	34
	英文	3	7	16	2	28
	日本文学	1	8	26	10	45
短期大学部	栄養	5	10	0	0	15
	英語	4	122	0	0	126
	生活情報	131	133	0	0	264
	食物栄養	38	6	0	0	44
	食生活	1	4	0	0	5
	生活造形	1	1	0	0	2
	服装テサイン	2	28	0	0	30
	服装文化	0	3	0	0	3
	合計	349	363	94	101	907

利用状況調査

1．調査方法

本学（家政学部，短期大学部）の学生のうち，アカウントを発行した907名から任意に抽出した約420名を対象に，インターネットの利用状況等についてのアンケート調査を行った（有効回答数419名）　質問事項は，インターネットに関する基本知識，E-mail，WWWなどの利用目的や状況である．

2．調査結果

本学の学生は，どのような理由からインターネットを利用しようと考えたのだろうか　調査結果を見ると，コンピュータ関連の授業で必要とするから，そして，世界中から情報を得たい，就職したときインターネットの利用は必須だと思うから，と続く（図2）．もちろん，授業での利用は，関連科目において必要となろうが，調査対象の学生の半数以上が，その目的を単に授業だけに置かず，社会の情勢などを敏感に捉えて，これからの必要性を感じていることが分かる　しかし，利用を許可されながら，7月から9月のおよそ3ヶ月間に全く利用しなかった学生が4分の1（図3）もあった．そのほとんどが夏休みを挟んでいて利用する機会がなかったと答えているが，利用講習をきちんと受けていながら，一人で機器を使うことに自信がないと答えている学

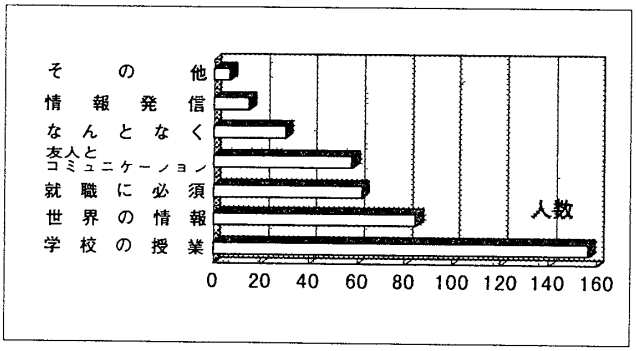

図2　インターネット利用の目的

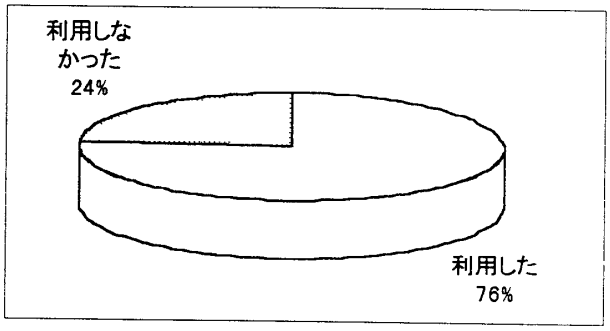

図3　インターネットの利用状況

生もあった

アカウントが発行されてから現在まで（7月から9月）の利用状況について見ると，E－mailでは，84％の学生が1回以上使っていて，3回以上使っている学生も4分の1を越えている　受信と発信との差異はなく，どちらかに偏っているわけではない　また，コミュニケーションの相手については，本学の学生が圧倒的に多く，外部とのメールのやり取りは少ない　現在，中部地区の女子大学および短期大学等のインターネット接続は急速に進んでいるが，学生が自由に利用できるまでには至っておらず，通信相手が外部に少ないためだと思われる　実際に，利用しなかった学生の記述回答に，“メールの相手がいない”が多い

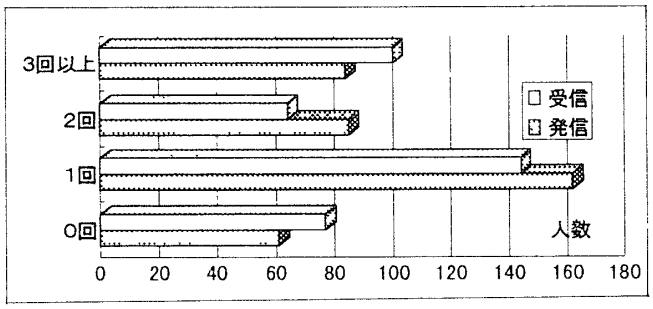

図4　E-mailの利用回数（7月～9月）

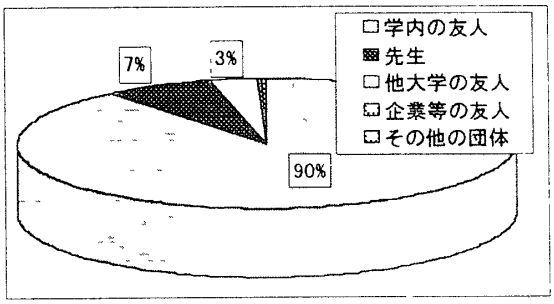

図5　E-mailによるコミュニケーション

次に，WWWの利用に関しては，利用回数が1回以下の学生が70％近くあり，まだ，情報を積極的に得ようとしているとは言えない　具体的には，時間がなく，家にもコンピュータがない，情報検索の方法がよく分からない，一人でコンピュータを使うことに自信がない，自分自身に明確な目的意識がなくインターネットを通して具体的に情報を得なくてもよい，などの記述回答が多く見られた　主な接続先では，国内の他大学，企業が圧倒的に多く，海外等への接続は少ない　それは，情報を得る目的のなさにも起因している

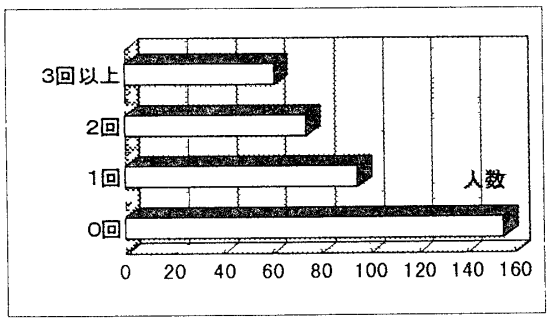

図6　WWWの利用回数（7月～9月）

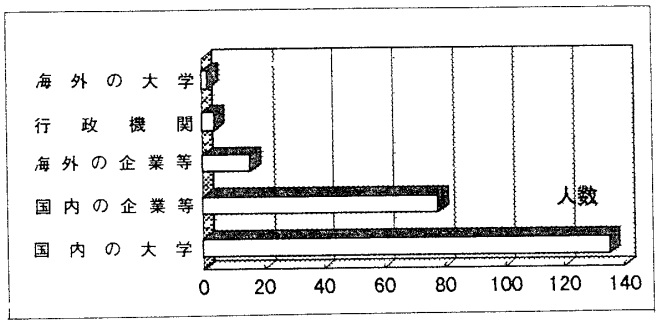

図7　WWWの主な接続先

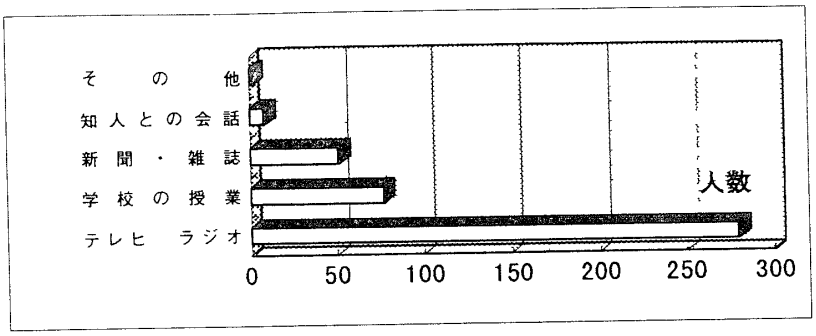

図8　インターネットに関する知識を得たもの

一方，インターネットの基本的知識について見ると，それらをどこで得たかに関して，テレビ・ラジオがトップでマスコミの影響が極めて大きいことが伺える（図8）．さらに，その知識度を4段階（A．人に説明できるくらいよく知ってい

る．B：自分ではよく知っているつもり．C：言葉の意味程度は知っている　D：全く知らない.）に分け，Aを3点，Bを2点，Cを1点，Dを0点として換算し，それらを合計した結果，高得点順にE-mail，ホームページ，ネットニュース，WWW，と続く（図9）　ここにも，マスコミ等の影響の大きさが表れている．

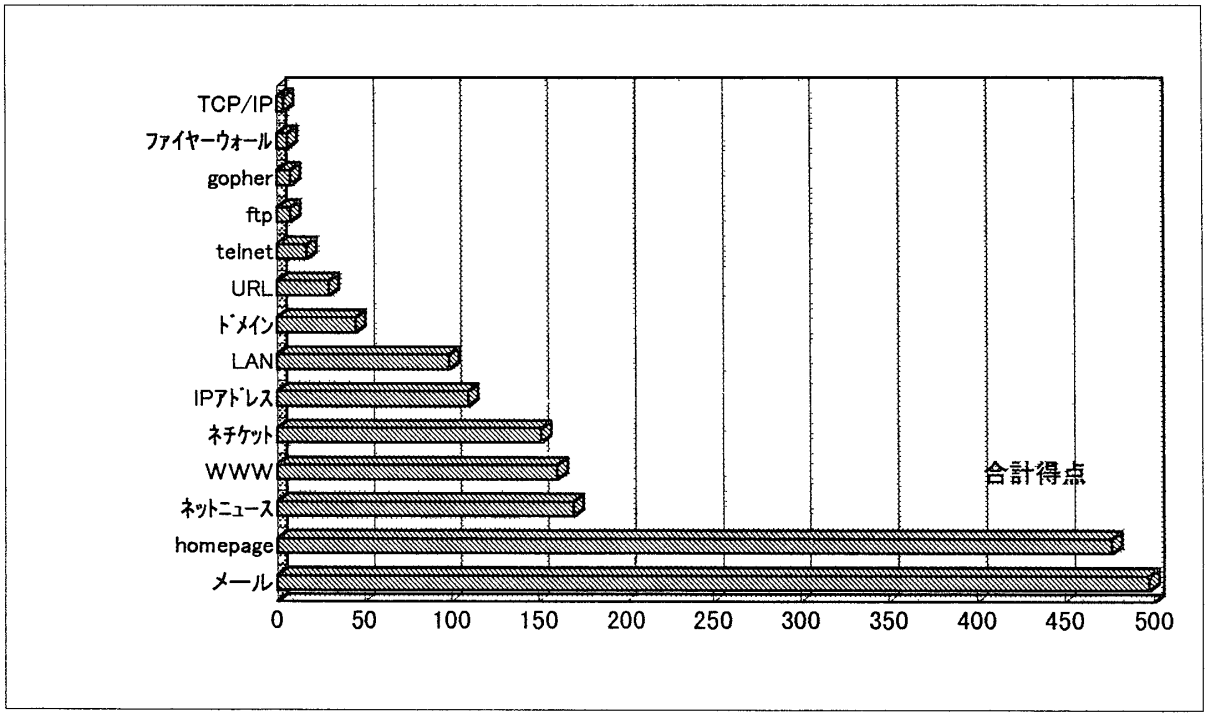

図9　インターネット関連項目に関する知識度

考　　察

学内LANの学生利用を開始したのが1996年7月で，まだ日も浅く，学生自身も十分理解して利用できるまでには至っていない　利用開始後，約3ヶ月間経過した9月現在，学生の利用状況を知ることは，今後の学内LANの整備およびインターネット利用に関する学生への指導に役立つ．こうした意味において，今回のアンケート調査結果について考察する．

調査結果から，学生がまだ電子情報の活用についての理解が少なく，その活用方法にも十分修得しているとは言えないことがわかる　なぜなら，活用の仕方によって，現在学生自身が求めている情報，あるいは，日常の学習や研究活動に十分役立つ情報が検索できる環境にありながら，WWWの利用状況が悪いことである（図6）　夏休みをはさんでいても3ヶ月あれば，もう少し活用できてもよかったのではないかと思う．マスコミに影響されて，イン

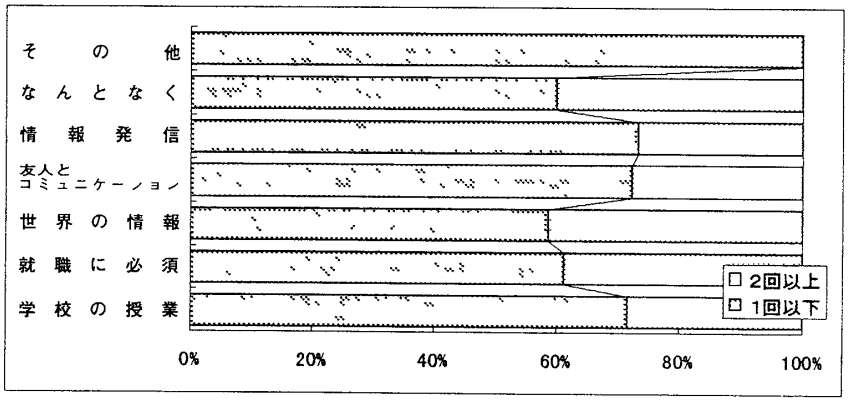

図10　WWWの利用回数とインターネット利用目的

ターネットを体験してみたけれど，いま一つ先に進まない　情報機器やその環境が急速に進んできている一方，学生自身，情報の活用についての基本的な姿勢に欠けていることは，コンピュータ機器等の操作技能というより，情報活用全般についての指導の重要性を再認識させられる

また，E-mailの利用は，学外にメールアドレスを持っている友人が少ないため，学外とのコミュニケーションの少ないことは当然であるが，学内では，結構利用していて（図4），この3ヶ月間で10回以上利用している学生も多い　これは，単に，E-mailという新しいコミュニケーション手段を得たことにすぎず，ポケベルや電話などと同等に考えているとも思われるほとんど，学内の友人とのメールの交換であって，情報活用とは別次元で考えなければならない　プライベートな質問はひかえているが，彼女らの話から推し量ると，とるに足らない会話が多いようである　一般情報教育の中で，E-mailの意味やその重要性など，指導の必要がある

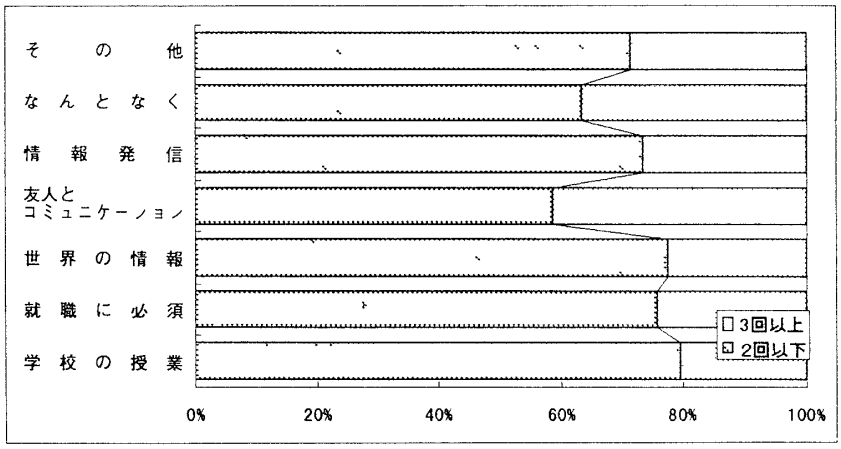

図11　E mailの利用回数とインターネット利用目的

学生のインターネット利用の動機について，WWWを利用（2回以上）している学生と，E-mailを利用（3回以上）している学生とを比較すると，前者では，“世界の情報を得たい”，“就職に必須（就職情報等）”に，後者では，“友人とのコミュニケーション”に多く，予想された結果であった　また，強い動機をもたず，ただ，“なんとなく”WWWおよびE-mailを利用している学生が多く見られ，今のインターネットフームと言える日本の状況を反映しているのかもしれない

一方，日常生活の中で，自分に必要な情報をどのような手段で得ているかなどの質問も合わせて行った　普段から，積極的に情報を得ようとしている学生とそうではない学生とを比べて，インターネット利用にどのような差があるかを検討した

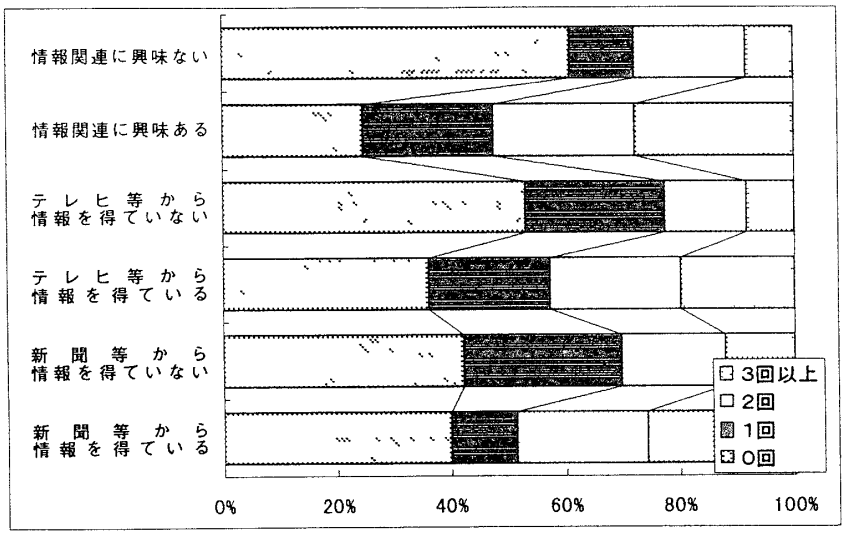

図12　WWWの利用と情報の収集等との関連

具体的に，情報関連教科に対する関心の程度とインターネット利用の傾向，日常生活における情報収集の方法とインターネット利用の程度，そして，インターネットに対

する基礎知識とインターネット利用など，それらの関連について考察する．

まず，インターネットに関する知識については，マスコミ等でよく話題になるE-mailとかホームページについては情報関連教科の関心度にかかわらず同程度の認識度であったが，少し専門的な内容に立ち入ったURL，ネットニュース，IPアドレス等については情報関連教科に対する関心度の高い学生が優位である

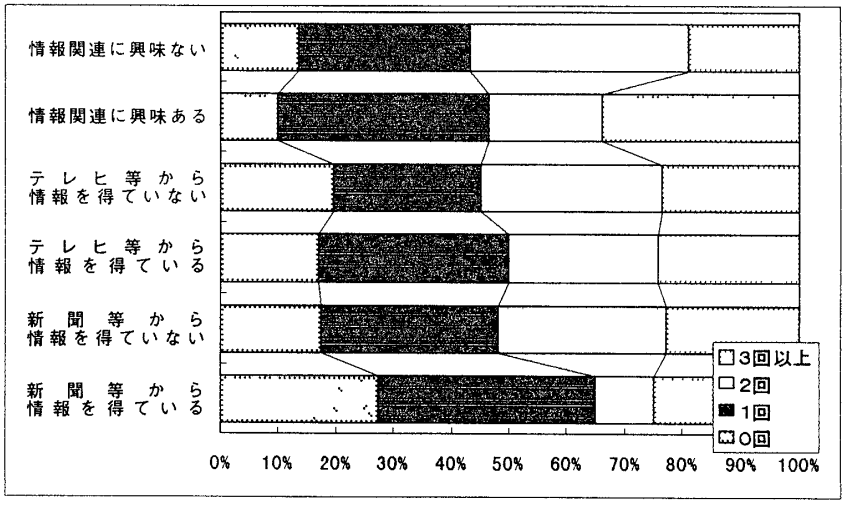

図13　E-mailの利用と情報の収集等との関連

次に，インターネットの利用回数について見てみると，WWW（ホームページ）を多く利用している学生（2回以上）では，日常の情報収集の方法として，テレビ・ラジオから主に情報を得ている，いわゆる映像メティア派に多いが，E-mailの利用についてはほとんど差が見られない（x^2検定，図12(p=0.026)，図13（p=0.59)）．後者については，先に述べたように，E-mailはコミュニケーションの相手がいなければならず，自分自身のみが興味を持っても利用できないことがあげられる

情報収集の手段としてWWWを考えると，主として新聞雑誌等から情報を得ている活字メディア派は，映像メティア派に比べてあきらかに利用回数が少ない　この傾向は，ホームページから得られる情報の質は，テレビ等の映像メディアに近く，読むというより，見るという感覚で捉えていることがうかがえる　調査対象の81％の学生が“読書はあまりしない”と回答していることから，活字離れが進んでいることとも関連しているようだ

あとかき

今，地方都市に，いくつものプロバイタが誕生していて，インターネットの普及は目覚ましいものがあり，家庭での利用も急速に進むものと思われる　今回は，学生利用を開始した直後の調査であって，大まかな傾向を知るに止まったが，今後，継続的に，特に，女子大生の利用傾向を探り，一般情報教育の中で，インターネット利用に関する指導方法を検討する必要がある　中でも，WWW利用とE－mailの利用について，前者は主に情報活用能力，後者はコミュニケーション能力として正しく育成する必要があり，インターネット利用のできる本学の新しいシステムは，十分その機能を果たすと思われる

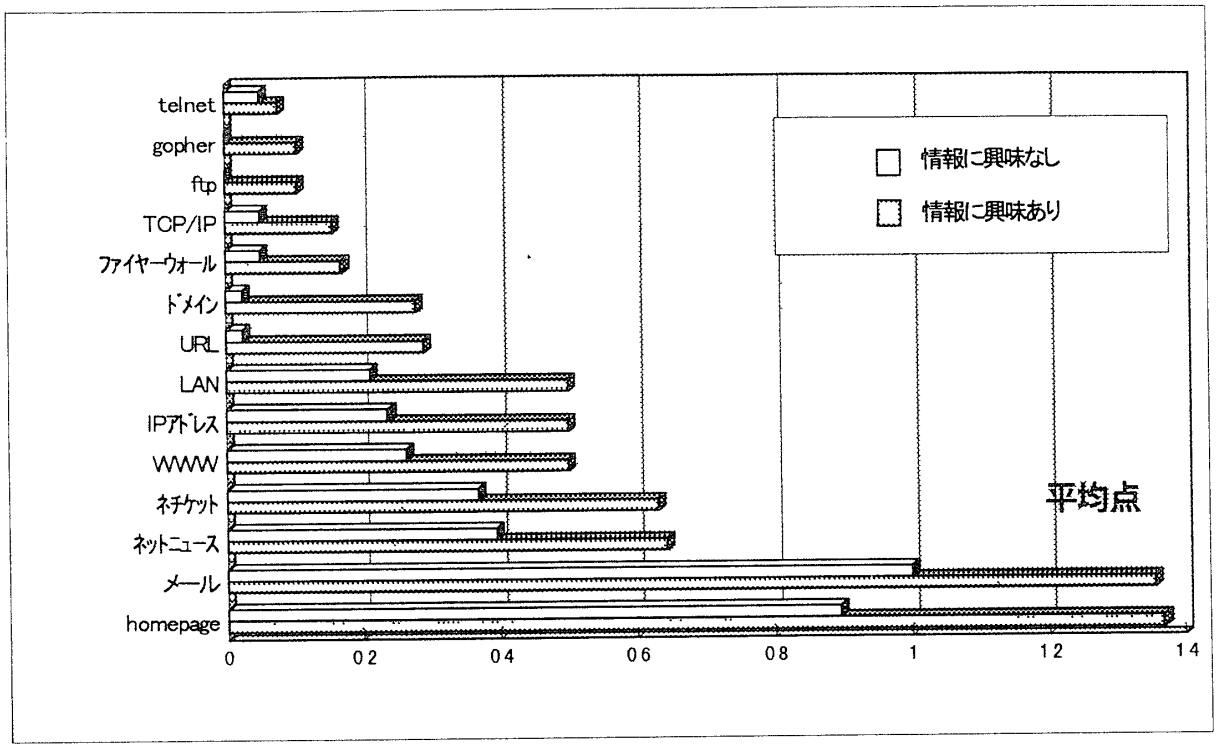

図14　情報関連科目への興味とインターネット関連の知識度